

作成番号:0164

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2024-164

\*\*\*\*\*

内容: 定期的な便潜血検査と結腸直腸がん死亡率

出典: Routine Fecal Occult Blood Screening and Colorectal Cancer Mortality in Sweden.

JAMA network open. 2024 Feb 05;7(2);e240516. pii: e240516.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38411959/>

\*\*\*\*\*

大腸がん死亡率を低下させるために、便潜血検査を用いた大腸がん定期検診は有効か？ スウェーデン・Sodersjukhuset の研究者らが、便潜血検査によって大腸がん死亡率がどうなるかを前向きコホート研究で検討し、その結果を JAMA Network Open 誌 2024 年 2 月 27 日号に掲載した。

スウェーデン・ストックホルム地域の 60～69 歳を対象に、2008 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日に実施された。住民は 2 年ごとの便潜血検査(グアヤック法)による大腸がん検診に早期(2008～12 年)または後期(2013～15 年)に案内が届くか、またはまったく案内が届かなかった。早期に案内が届いた人を曝露群、後期に届いた人または届かなかった人を対照群とし、主要評価項目は大腸がん死亡率とした。超過死亡数は、大腸がん罹患した人の全死因死亡数から、大腸がん罹患しなかった場合に予想される死亡数を引いた。解析対象は 379,448 人(女性 51.0%)で、曝露群 203,670 人、対照群 175,778 人であった。平均受診率は 63.3%で、追跡期間は最長 14 年であった。曝露群では 2,190,589 人年で 834 例が大腸がんで死亡したのに対し、対照群では 2,249,939 人年で 889 例が大腸がんで死亡した。早期に大腸がん検診を受けた群では、大腸がん死亡(RR: 0.86、95%CI:0.78～0.95)および超過死亡(RR:0.84、95%CI:0.75～0.93)の調整リスクが減少した。

最初の 5 年間に検診の案内が届いた人は、それより遅く届いた人や届かなかった人に比べて、大腸がん死亡率が 14%減少したことがわかった。

Table 3. Deaths With CRC as Underlying Cause of Death and Person-Years for the Total Cohort

Group <sup>a</sup>	All individuals, No.		Individuals with CRC, No.				Difference, No.
	Person-years	CRC deaths	Person-years	All-cause deaths	Expected deaths	Excess deaths	
Exposure	2 191 000	834	14 573	1160	269.2	890.8	56.8
Control	2 250 000	889	15 102	1283	307.6	975.4	86.4

Abbreviation: CRC, colorectal cancer.